

YOZAN

ユビキタス社会の基盤へ進化する 新世代公衆無線LAN「BitStand」

6月に就任した大島潔新社長の下、YOZANが、新たな事業展開に乗り出した。柱の1つは、基盤となるWiMAX事業のインフラ整備。もう1つの柱が収益を重視した新たな事業モデルの確立だ。体制を整え、ユビキタス時代に向けた、新しい無線インターネットのアクセスサービスの実現に挑む。

WiMAX技術を活用した無線インターネットアクセスサービスを主力とする通信事業者YOZAN(本社・東京都千代田区)が、新たな事業戦略を打ち出した。

そのポイントは2つ。1つ目は、現在取り組んでいるWiMAXインフラの構築を加速させること。そして、2つ目が、自治体向けに提供している「地域情報システム」などページャー関連ビジネスを展開する「マルチキャスト事業」と今期新たにスタートした「Web3Dコンテンツ制作」の2つを基幹事業と位置づけ、今年度中に収益事業として軌道に乗せることだ。

狙いは、インフラビジネスの宿命ともいえる投資と資金回収時期の間のギャップを埋める新たな収益源の確保にある。

新たな収益事業を創出

今回、YOZANが新たな戦略を打ち出した背景には、基盤となる

WiMAX事業のインフラ構築の遅れがある。

同社は、東京通信ネットワーク株式会社(現KDDI株式会社)の事業を承継し、2002年から展開してきたPHS事業から撤退、その基地局ロケーションを活かして、最新の無線通信技術であるWiMAXを活用した無線インターネットアクセスサービスを昨年末、東京都内でスタートさせている。

YOZANのWiMAX事業では、4.95GHzのWiMAXによるインターネットアクセスを直接、企業などに提供する「WiMAXダイレクト」とWiMAX回線をバックボーンとして、2.4GHz帯を用いた公衆無線LANサービスを提供する「BitStand」の2つのサービスが提供されている。

そのうち主力となるBitStandは、新世代の無線LANサービスといえるもので、PHSの基地局で使用していた電柱などのロケーションを活かすことで、屋外を広範にカバー、ページャー



代表取締役社長
大島 潔氏

システムを活かし双方向性を高めるなど、既存の公衆無線LANサービスとは一線を画すサービスの実現が目指されている。

YOZANは、当初、今年夏頃までにPHSの東京23区の主要部で数千局のアクセスポイントを整備し、BitStandを本格展開する計画だった。

ところが、途上で無線LANのアクセスポイントの機能とWiMAXバックボーンとの接続機能を兼ねる「ProST」と呼ばれる装置の安定性に不安があることが判明、ベンダーのエアスパン社とともに、その対処に追われることになった。この影響によりインフラ構築計画は大幅にずれ込み、今年10月末現在で、親局となるWiMAX基地局が100局、無線LANのアクセスポイント(ProST)も100局程度が稼働するにとどまっている。

当然、当初の事業計画にもずれが生じることから、これを契機に、事業フレームの再構築を図ったのが、冒頭の新事業戦略なのである。

新たに基幹事業として位置づけられた2つの事業分野の1つ、マルチキャスト事業で特に期待を集めているのが「地域情報配信システム」。ページャーの電波を活用して専用受信機に、文

字や画像、音声などによる情報提供を行うものだ。防災無線の代替や福祉サービスなどの用途で導入されている。YOZANはこのシステムをこれまで首都圏1都3県で展開(沖縄県では株式会社沖縄テレメッセージが展開)し、すでに3自治体でシステムが稼働しており、相当数の商談が現在も進行中だという。

これを受けて、今年YOZANは、同システムの送信拠点へのデータ配信を担当している衛星通信会社JSATと合弁会社設立に向けた協議を進めており、全国規模の事業展開に乗り出している。

もう1つのWeb3Dコンテンツ制作事業は、もともとは、携帯電話向けの3Dコンテンツも実現可能なWeb3D技術を用いて、WiMAXサービス上でショッピングモールやゲームサイトなどのコンテンツサービスを展開することを想定して開始したものだ。

今年に入ってYOZANでは、この技術を活用してWebサイト構築事業に進出、すでに大手企業からの受注も獲得しており、今後の事業展開に期待が集まる。

屋内外をシームレスにカバー

ところで、YOZANが直面する最大の課題は、いうまでもなく一刻も早くWiMAXのインフラを整備することだ。

そこで同社では、来年度までに首都圏に1200局、関西地区、東海地区に各400局、計2000局のWiMAX基地局の整備する計画を打ち出した。現在急ピッチで建設作業が進められている。

BitStandサービスの特色の1つは、屋外中心に公衆無線LANサービスのエリア展開を行っている点にあるが、

Web3Dで作製した3D画像の例



YOZANでは今年に入って屋内アクセスポイントの展開も力を入れ始めている。これにより屋内外をシームレスで利用できるサービスの実現を目指しているのだ。

これを可能にしたのがPLC(高速電力線通信)技術、屋内の電気配線をLAN代わりに利用するものだ。

この技術を使えば、屋内での公衆無線LANサービスで負担となっていた通信回線の敷設と電力の確保が不要となり、既存のコンセントに接続装置をつなぐだけで、極めて手軽にビル内に公衆無線LANのアクセスポイントを設置することができるようになる。

YOZANではPLCをインフラ事業の新規ビジネスとしても予定しており、マンションへの高速インターネットアクセスの提供にも乗り出しているという。

さらに同社はBitStandのサービスエリアを拡充するために、ローミングにも積極的に取り組んでいく方針を打ち出している。それは主要な無線LAN事業者とローミングの実現のみならず、コンテンツ配信など多方面に及びつつ、ユビキタス時代のインフラにふさわしいサービスを実現していくという。

そして今年10月にはNTTグループのインターネットサービスの中核会社であるNTTコミュニケーションズと提



BitStandサービスでは、BitKeyと呼ばれるUSBメモリーをWi-Fi内蔵PCに差し込むだけで簡単にインターネットにアクセスできる。10月にはスパークワンと提携、IP電話で、03から始まる番号で国内・外の固定電話、携帯電話に発信できるサービスもBitKeyで利用できるようになった。(お問い合わせ先 株式会社スパークワン Tel: 03-5774-8969 http://www.spark-one.co.jp)

携交渉を開始した。

新戦略の陣頭指揮を執る大島潔社長は「新たにベンチャー企業を興すのと同じゼロからのスタートだと考えている。意志決定を迅速にして、スピード感のある事業展開を行っていく」と語る。

機動性を増したYOZANのWiMAXサービスは、ユビキタス社会を支える基幹サービスに成長していくことになりそうだ。

お問い合わせ先

株式会社YOZAN
東京都千代田区神田美土代町7
住友不動産神田ビル16F
Tel: 03-3518-4347
http://www.yozan.co.jp



WiMAX基地局(左)
無線中継局「ProST」
(右上)
無線子局(右下)